

対話型オンライン保育合同研究会 保育施設基本情報

園・施設名	中野りとのばんぶきんず（福岡2園、東京8園、神奈川1園）
経営主体	社会福祉法人清香会
所在地	東京都中野区新井4-10-10
定員	80名
理事長名	大江恵子
園長名	加賀谷美保
採用担当者	岩澤美津子
電話番号	03-5345-8331（中野りとのばんぶきんず）
保育理念 保育方針 保育目標	<p>【法人理念】 新しい保育の創造</p> <p>【園理念】 無限の可能性を信じて共に育ちあう個と公の集団</p> <p>【園方針】 1、子どもにとって最大限に必要な保育を提供します 2、保護者の就労支援と子育て支援をおこないます 3、地域に開かれた園を目指します</p> <p>【園目標】 1、基本的な生活習慣の自立 2、自主性・自発性の確立 3、社会性の確立</p>
保育環境	<p>中野りとのばんぶきんずは、園からほど近いところに緑豊かな2つの大きな公園があり、散歩や運動会で使用したりしています。また、神社やお寺など歴史ある文化施設なども多く、季節行事などにも参加しています。職員は地域の夏祭りに参加して神輿をかついだり、地域とのつながりも大切にしています。</p> <p>保育はモンテッソーリ教育の考え方をベースに法人独自のプログラムや特色のある保育活動（あるて（芸術保育）・ライモ（英語）・スポーツ教室など）を採り入れています。子どもが自分のやりたいことを選択できる「選択制保育」も行っています。クラス編成は異年齢保育が基本的な生活のクラスとなっており、見て学び、して学び、教えて学ぶ、という子どもの成長につながっています。給食はビュッフェスタイルで配膳を行ったり、0歳児から毎月クッキング活動を行うなど、食育を日々の生活に採り入れることも大切にしています。</p>
ホームページURL	<a href="https://www.seikouka.or.jp/facilities/yokohama/">https://www.seikouka.or.jp/facilities/yokohama/</a>
事前質問	<p>《保育の質》についてのお考えをお聞かせください。</p> <p>保育において、人的環境と物的環境がそろっていることが大事だと考えています。子どもは、自らを成長させる力を持っています。子どもがイキイキと自らやりたいことを選択し取り組むことで、その力が最大限に発揮されます。保育者は子どもをしっかりと観察し、個々の要求・欲求に合わせて取り組める「環境」を整えることが大切です。</p> <p>また、保育の質といっても子どもだけのことでなく、職員の労働環境を整えることも保育の質を考える際には欠かせないことだと考えています。ITのほか、業務の見直し、職員配置なども配慮をしています。</p> <p>「保育の質の向上」のために取り組んでおられることについて、具体的にご紹介ください。</p> <p>保育の質の向上を目指すには、人間性と専門性の両方を伸ばしていくことが大事です。</p> <p>専門性の向上については、基本的な保育の進め方や、子どもの発達についての学び、プログラムの実践について、役割別研修やクラス別研修、資格制度など、幅広い水平方向の学びと、一つの分野を極めていく垂直方向の学びのどちらも選んでいける研修体系が整っています。</p> <p>人間性の向上については、職員が自ら考え、主体的に保育に関わるための土台となる、人間力アップ研修、感情のコントロールや集中力のためのブレインストレッチ（呼吸法）、コミュニケーション研修など、保育だけに偏らない成長を支援しています。</p> <p>職員個々の得意を活かしながらチームを築いていくことを大切にしており、学び合い、伝え合う風土が根づいています。</p> <p>学生の就活において「職員同士の人間関係」が重視されていることについて、お考えをお聞かせください。</p> <p>人間関係は働くうえで基礎となることだと思います。保育園はチームで話し合ったり動くことも多いので、子どもの安全を保ちながらも成長を支援したり、職員のモチベーションをアップしたりするために、チーム力がとても大切です。チーム力の基盤は人間関係です。ただ、人間関係は相手に求めるだけのものではないことは忘れてはなりません。人間関係は自分で作るもの。自分の考え方や行動次第で人間関係は変わります。人間関係をより良くするための取り組みとして、コミュニケーション研修や、脳の使い方のクセを知り、相手に合わせたアプローチを進めるための脳スタイル研修なども行っています。</p> <p>乳幼児期における「子どもと保育者の望ましい関係」についてのお考えをお聞かせください。</p> <p>また、そのような関係を築く上で大切にしていること、実践していることを具体的にお教えください。</p> <p>年齢や発達に応じて子どもとの関わりは変わってくると思いますが、乳児は、スキンシップやアイコンタクト、言葉などを通じて、自分がしっかりと愛され、受け入れられているという気持ちを日々の生活の中で感じ取れるような接し方を心掛けています。また、一人ひとりにあった対応を大切にするのと同時に、少し年上の子ども達の刺激を受けることも大事だと考えているので、異年齢で関わる機会も多く設けています。</p> <p>幼児では、今までの経験や自らの好奇心などに合わせて、挑戦したり、学んだり、一人で集中したり、という経験を大切にしながらも、集団の中で育つ力を意識して関わっています。必要に応じて保育者が間に入りながらも、子ども同士で考えたり、話し合ったり、様々な気持ちを体験できるためのサポート役として、子ども達と関わっています。</p> <p>生活習慣の自立に向けた援助や関わりで大切にしていることについて、簡単な事例を基にご紹介ください。</p> <p>子どもが扱いやすい大きさ、素材などに気を配って用具や備品を整えています。例えば、雑巾は子どもが自分で絞れるような大きさにしたり、お茶は自分で注げるような大きさや重さのピッチャーを揃えるなどしています。これは子どもが自分でできたという達成感を味わえるとともに、もしこぼしたりしても、自分で片付けができるように、と考えているからです。大人はむやみに口をはさまず、子どもが大人を必要とした時に寄り添えるよう意識をしています。また、子どもが自立に向かうためには、自らの欲求に合わせて選択し、学んでいくことが大切です。そのための環境を整えるのが、保育者の役割です。</p>
学生へのメッセージ	<p>今はVUCAの時代（何が起るか予測不能時代）と言われています。そのような時代だからこそ、そして、コロナ渦の今だからこそ、子ども達にとって私達大人が素直に輝いていることは大切だと思います。夢と希望を持ち保育士という仕事を誇りに毎日過ごしていきたいですね。</p> <p>そのためには、自分がどう成長していけるのかをイメージできる園を探してほしいと思います。子ども達が自立に向かうためにはどんな環境が魅力的で、必要なか？保育士のどんな接し方が望ましいのか？是非一緒に考えていきませんか？</p> <p>素直で謙虚、そして前向きな姿勢を生産持ち続け、子ども、保護者、同僚と共に学び合いながら成長していく、そんな働き方・生き方ができれば、周りにも良い影響を与える人に成長していくことができると 생각합니다。</p>